令和５年度　江戸川区立南葛西第三小学校　校内研究

１　研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成

～発問を生かした板書計画を通して～

２　主題設定の理由

（１）　これまでの校内研究の取組から

本校では、令和３年度から道徳科の校内研究に取り組み、「教科書を学ぶ」ではなく「教科書で学ぶ」授業展開をするため、教科書の内容を扱う、「展開前段」と自分事として考えたり、自身の行動や生活を振り返ったりする「展開後段」に分け授業づくりをしてきた。昨年度は、テーマ追究型を授業づくりの中心において、導入（入口）と展開後段（出口）を同じ発問構成にすることで児童の思考の深まりと道徳性の育成を図ってきた。

前述したように、発問が変われば授業が変わり、発問が変わればそれに連動して板書も変わるというのは自然なことであり、本年度は板書へのイメージを大きく変えることが児童の思考を手助けするものと考える。

（２）　児童の実態から

年２回のアンケート調査によると、本校児童は、７割の児童が「道徳の学習が好き」「道徳の学習は自分の生活の役に立つ」と答えている。また、学習活動についても話合い、タブレット、ワークシートなど、どの方法もほぼ同じ割合で「好き」と答えている。

本校の児童は、基本的な生活習慣が定着していない児童が多く、学習でも目標に向かって努力したり、粘り強く取り組んだりする姿勢が弱く、「学びに向かう人間性」等、人間性の向上が大きな目標である。しかし、比較的高い道徳学習への興味関心を指導の要として、道徳性の育成を図っていけば、学習面・生活面においても児童のよりよく生きるための基盤を育成できると考える。

（３）　本校の教育目標から

本校の教育目標の一つに、「豊かな心」がある。いじめについて考える「ピンクシャツデー」や「いじめ防止授業」、オリ・パラ教育を通した「障害者理解教育」、原爆や東京大空襲について学ぶ「平和学習」など、特色ある教育活動を推進してきた。

これらの教育活動は人権教育・道徳教育の役割を担っているため、それぞれの活動と連携させたり、日々の授業と関連を図ったりすることで、児童の豊かな心を更に育成し、人間性を向上させることができると考える。学校教育全体で行う道徳教育の要の役割を果たすのは、「道徳科」である。児童の「人間性の向上」のためには、道徳科を更に充実させることが必要である。

（４）　本年度の研究について

２年間の校内研究を通して、道徳科の指導方法が定着してきた。しかし、板書が「話の内容にそって右から左に書く」というような、ゴールが決まっており、あらかじめ用意された場面絵や発問掲示するような授業計画が課題であった。上述したように、発問が変われば、板書も変わり、内容項目によって板書も様々であると考える。よりよい授業を目指すなかで、「板書が変われば授業が変わる」を研究仮説として教材研究、授業づくりをしていきたい。縦書き、横書きにこだわる必要

はなく、道徳性の高まりや広がりを子供たちが自らの気付きを通してる獲得できるような板書を考えていきたい。

３．研究構想図

【学校教育目標】
〇確かな学力　〇**豊かな心**　〇健やかな体

【目指す児童像】
よりよく生きるための基盤となる**道徳性**をもった児童
道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度

低学年	中学年	高学年	専科	ゆりのき	ことば
登場人物になりきって、道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として考えることを通して、より良く生きようとする。	話合いを通して、自分の思いだけでなく、友達の多様な感じ方や思いも受け止め、自分の生き方について考えている。	話合いを通して、時に対立する場合も含めて自分の考え方を強固にし、自分の生き方の課題を考えている。	教科の学習の中で、道徳の時間に学習したことを振り返ったり、さらに深く考えたり、つなげて考えたりしている。	自分の課題に応じて、道徳の時間に学習したことを思い出し、さらに深く考えている。	言語障害による困難に対し、道徳の時間に学習したことを思い出しながら、自らすすんで解決しようとしている。

道徳性の深まり・広がり

【研究テーマの追究】
① 教材提示の工夫　②発問構成の工夫　③板書の工夫

【中心発問をもとにした授業プラン】

指導事項の特徴を基に教材研究 ⟷ ねらいの明確化

発問（基本・**中心**・補助・テーマ等） ⟷ 発問が生きるための板書

【研究仮設】
内容項目や発問によって板書を変えれば、児童の道徳性が育ち、
将来をよりよく生きることができるだろう。